

測定する能力	漢字・語彙力	論理的言語力	論理的読解力A	論理的読解力B	論理的思考力	論理的表現力
	漢字の読み・書きに加え、漢字を言葉として使いこなす力。文脈の中で正しく判断する力。	主語と述語の関係、言葉のつながり、助動詞の使用など、日本語の基本的な規則。	簡単な文章を筋道を立てて読み、理解する力。誰が・何を・どこで・どうした・なぜ、などを把握できるかどうか。	簡単な物語文を読み取る力。特に物語の筋や登場人物の心情などを、客観的に把握する力。	日本語の規則に従って、簡単な一文を作成する力。一文を作成する上で、助詞の正確な使い方。	与えられた絵の中で、必要な情報を正確に読み取り、主観を入れずにそれを表現する力。

《問題Ⅰ》 漢字・ごい力 \*\*\*  
 (60点)

- 答え
- 一 早 (2) 貝 (3) 年生
- 二 (1) いもうとは ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
- 三 (1) ちくちく (2) ことごと (3) ぱちぱち (4) ぐんぐん

《問題Ⅱ》 ろんりてき言語力 \*\*\*  
 (30点)

- 答え
- 一 (1) ハンバーグ (2) ひこうき
- 二 (1) すう字 (2) しよつき
- 三 (1) ウ (2) ア
- 四 (1) ウ (2) ア
- 五 (1) だから (2) つまり

◆ 点数 \*\*\*

一 各5点 二 各7点 三 各6点

◆ かいせつ

- 一 文章のないようから、意味を考えます。
- (1) 「おきる」につながるの、「早く」。「円く」。「赤く」は意味の上でつながりません。
- (2) 「はまべ」でひろったもので「貝がら」。
- (3) 「五」につながるの「年生」。
- 二 (1) はくのは「いもうと」なので、「いもうとは」。何をはくかという、「くつを」。
- (2) 「となり町の」は「びょういん」をせつめいする言葉。どこへ行ったのかという、「びょういんへ」。
- (3) 「にわの」は「ざっ草」をせつめいする言葉。何をぬいたかという、「ざっ草」。

- 三 (1) おなががいたむ様子。
- (2) 弱火でなべの中のものにえる音。
- (3) 手で何度もたたくときの音。
- (4) いきおいよく進んだり成長したりする様子。

◆ かいせつ

- 一 それぞれの言葉のきょうつう点をさがし、なかまにならない言葉をえらびます。
- (1) 「ハンバーグ」の他は、めんるいです。
- (2) 「ひこうき」の他は、家電せいひんです。
- 二 それぞれの言葉のきょうつう点をさがし、それらをまとめる言葉をえらびます。
- 三 反対の意味の言葉をおぼえましょう。
- (1) 「ほそい」の反対は「ふとい」。
- (2) 「のびる」の反対は「ちぢむ」。
- 四 (1) せんろをはしるのは、「でん車」。
- (2) 実が育つことを、実が「なる」と言います。
- 五 文と文とのつながりを考えます。
- (1) 毎週本をかりに行く理由が、前の文の「本をよむのが大きい」なので、「だから」。
- (2) 前の文の「たまごやきとハンバーグとスパゲツティ」を、「わたしのすきなもの」とまとめているので、「つまり」。

◆問題Ⅲ

ろんりてきどっかい力A

(30点)

●答え

- 一 びわこ
- 二 がつきのびわににている  
(かたちがびわににている)
- 三 ウ

■点数  
各10点

◆かいせつ

- 一 この文章は何の話なのかを読みとります。「びわこ」という湖についての話が書かれています。
- 二 3行目に「(かたちが) がつきの びわに にているので」とあります。
- 三
  - ア 「せかいで」ではなく「日本でいちばん大きい」から、×。
  - イ 「なん百年もまえにできた」ので、×。
  - ウ 4行目に「千しゅるいをこえるどっしよくぶつがいて」とあるので、○。

◆問題Ⅳ

ろんりてき思考力

(30点)

●答え

- 一 ア (2) イ
- 二
  - (1) ぼくは 大きな さつまいもを ほった。
  - (2) わたしは あたたかい ココアを のんだ。

■点数  
各7点

■各8点

◆かいせつ

日本語のきまりにしたがって、正しい一文を作れるか。

- 一
  - (1) 「はなし」をせつめいする言葉は、「こわい」。
  - (2) 「見える」をせつめいする言葉は「はつきり」で、明らかに見えるという意味です。
- 二
  - まずじゅつ語(どうする、どんなだ、なんだ)を見つけ、それに合う主語(なにが、だれが)を見つけてます。

- (1) じゅつ語は「ほった」で、主語は「ぼくは」。何をほったかという「大きな」↓「さつまいもを」。
- (2) じゅつ語は「のんだ」で、主語は「わたしは」。何を飲んだかという「あたたかい」↓「ココア」。

を」。

◆問題Ⅴ

ろんりてきどっかい力B

(30点)

●答え

- 一
  - (1) イ ↓ オ ↓ ア ↓ エ ↓ ウ
- 二
  - (1) ア
  - (2) ウ

■点数  
各10点

■各5点

◆かいせつ

- 一 話の順番を考える。
  - (1) ア「そして」、ウ「けつきよく」、エ「すると」から始まることはないので、さいしょはイかオ。神様が美しい鳥を王様になると言った↓きれいな羽を集めた、という順番がよいから、イ↓オ。その後、ア「はねをからだ中にはりつけてきかざった」↓エ「ほかのとりたちはおこつてじぶんのはねをくむしりとつた」↓ウ「けつきよくカラスにのこされたのはじぶんのくろいはねだけだった」というお話。
  - (2) カラスは、きれいな羽をひろい集めてきかざりましたが、それはにせものだったことがばれてしまい、結局王様になることはできませんでした。見かけだけ取りつくりしても意味がないということです。
- 二
  - (1) 「わくわく」は、期待で心がはずむような気持ちを表す言葉。
  - (2) 「そわそわ」は、気持ちやたいどが落ち着かない様子を表す言葉。

◆問題Ⅵ

ろんりてきひょうげん力

(20点)

●答え

- 一 ウ (2) イ (3) エ (4) オ (5) ア

■点数  
各4点

◆かいせつ

絵を見て、ありのままをとらえてひょうげんする力。

- (1) ぞうは何のそばに立っているのか。
- (2) ぞうは何で何をつかんでいるのか。
- (3) ぞうは何で何をつかんでいるのか。
- (4) だれが何の外からぞうを見ているのか。
- (5) だれが何の外からぞうを見ているのか。